

## 所管事項調査に関する資料

目次	ページ
1 国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎 展示改修基本計画（案）の概要について . . . . .	2 ~ 9
2 訴訟の現況について . . . . .	10

原爆被爆対策部  
令和6年2月

# 1 国指定史跡長崎原爆遺跡旧城山国民学校校舎展示改修基本計画（案）の概要について

## 1 施設概要

- (1) 位置 長崎市城山町95番地 市立城山小学校内  
(爆心地から約500m)
- (2) 建設時期 昭和12年（1937年）
- (3) 構造 鉄筋コンクリート造 3階建て
- (4) 来館者数 修学旅行生など年間約3万人



## 2 事業概要

旧城山国民学校校舎は、長崎市被爆建造物等のAランクに位置付けられている被爆建物で、平成11年から1階と2階を展示室として公開している。

平成28年に国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する一つとして文化財指定を受け、文化庁の補助金を活用し、耐震化や保存修理工事を行うこととしており、3階以上の公開・活用が可能となる。

これにあわせ、被爆建物の保存と活用を図り、被爆の実相の継承を進めるため、校舎全体の展示を更新する。



1階展示状況



2階展示状況（被爆樹木カラスザンショウ）



2～3階の階段部（未整備）



3階～塔屋の階段部（未整備）

### 3 事業スケジュール(案)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度～
展示改修	基本計画	展示内容考案	基本設計	実施設計・施工	
耐震化・保存修理工事	実施設計		施工		

## 4 展示改修基本計画(案)の概要

### (1) 計画の位置づけ

国指定史跡長崎原爆遺跡保存活用計画、国指定史跡長崎原爆遺跡整備基本計画を上位計画とする旧城山国民学校校舎にかかる展示改修基本計画としての位置づけ。

### (2) 計画の構成

- |          |                |
|----------|----------------|
| ア 現況把握   | エ ゾーニング計画      |
| イ 課題点の整理 | オ 展示活用のための運営計画 |
| ウ 展示方針   | カ イメージパース      |

### (3) 現況把握

#### ・現地確認

現状の展示の効果的な部分と改善を要する部分を現地にて調査

#### ・城山小学校被爆校舎平和発信協議会、城山小学校へのヒアリング

来館者や児童の学びをサポートする視点から見た展示の改善を要する部分について調査

#### ■旧城山国民学校校舎自体の特徴

- ・国指定史跡長崎原爆遺跡を構成する遺構（文化財的価値）
- ・長崎市における数少ない鉄筋コンクリート造の被爆建物（被爆建物としての価値）
- ・児童の発案で城山小学校平和祈念館として展示を開始（学校・教育の面から見た価値）
- ・小学校内に存在しており、地域の人々の手で守られている建物（守り伝えてきた歴史の価値）
- ・『平和は城山から』に代表される平和学習の文化の象徴（城山ならではの価値）

➡多様な価値を引き出しうる展示改修計画を策定することが求められている。

#### (4) 課題点の整理

- 文化財としての価値を訴求できていない
  - ・国指定史跡長崎原爆遺跡として文化財指定を受ける前に制作された展示であるため、文化財としての価値について言及がない。
  - ・被爆の痕跡が残る「木レンガ」やその周囲の壁面が、パネル等で隠れているところがある。
- 被爆校舎としての価値を訴求できていない
  - ・長崎原爆資料館と重複する内容も多く、旧城山国民学校に関する展示が埋没している。
  - ・展示に統一感がなく、ストーリー性に乏しい。
- ガイダンス機能が十分でない
  - ・学習効率を高める導入展示（ガイダンス）を行いたいが、展示動線の関係で、ガイダンス待ちの来館者を外で待たせてしまう場合がある。

#### (5) 展示方針

##### **被爆した実物のリアリティを最大限活かす、校舎自体を見せる展示**

- ・被爆校舎自体を主要な展示物として位置づける展示
- ・文化財としての価値を十分理解できるよう空間演出も含めた展示  
(文化財の価値の伝達には被爆体験の継承の視点が不可欠)
- ・原子爆弾による被害を総体として捉えることができるよう手助けできる展示
- ・原爆により亡くなられた方々を追悼し、守り伝えてきた方々の思いを受け取ることができる展示
- ・城山小学校内にあることの強みを生かし、原爆被爆と学校・教育のつながりを示す展示

## (6) ゾーニング計画(全体)

・階ごとにテーマを持ち、建物全体を通じたストーリーを構築する。

### ■ 各階の展示構成

**1階：導入、原爆の被害01** 城山小学校設立から現在までのあらし、原爆被爆の被害のすさまじさを建物の被害を中心に伝える。

**2階：原爆の被害02** 原爆被爆の被害のすさまじさを人的被害を中心に伝える。

**3階：平和は城山から** 被爆校舎をかけがえのない教材として次代の子どもたちに継承していく営みを含め、城山小学校の歩みを伝える。

**塔屋：城山から世界へ未来へ** 原爆投下で奪われた先生・児童の未来を私たちは生きているということを自覚し、自分事として考える場とする。

## (7) ゾーニング計画(各階)

### 1階：導入、原爆の被害01

城山小学校設立から現在までのあらし、原爆被爆の被害のすさまじさを建物の被害を中心に伝える。

○主な展示コーナーとねらい

#### 城山ガイドンス

文化財の価値を支える被爆校舎の設立から現在までを学ぶ。

#### 爆心地と城山国民学校

爆心地に近いことへの気づきを促す。

#### 1945.8.9 11:02am

貴重な写真資料等により被爆した旧城山国民学校とその周辺の状況を見ることで、原爆被爆による被害のすさまじさを伝える。

#### 階段室

木レンガとは何か、解説する。

燃えていない木レンガへの注目を促すことで、上層階で炭化した木レンガを対比的にみるための基礎を据える。



## (7) ゾーニング計画(各階)

### 2階：原爆の被害02

原爆被爆の被害のすさまじさを人的被害を中心に伝える。

○主な展示コーナーとねらい

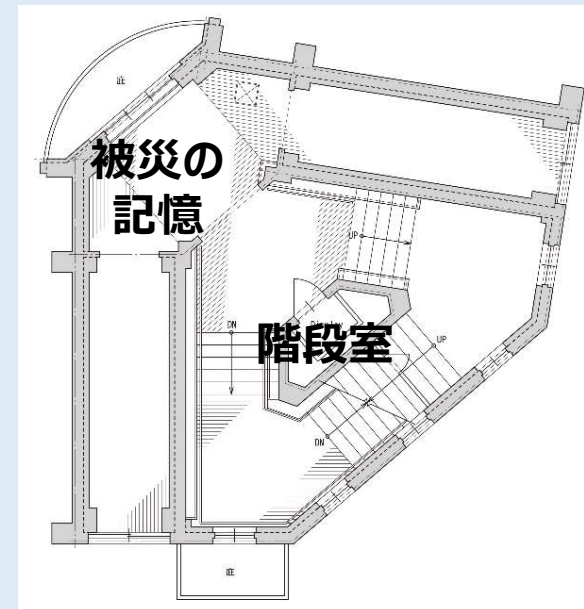
#### 被災の記憶

原爆被爆によって亡くなった先生、児童の遺影、生き残った先生、児童による証言記録など、子どもたちに引き付けて、被爆による惨禍を自分事として感じてもらう。

原爆被爆時、校内には三菱兵器製作所の疎開事務所があり、死亡者の大半を占めた。特に動員学徒の被災状況を伝えることで、修学旅行生が被爆当時の同世代の子どもたちに思いを寄せ共感してもらう。

#### 階段室

炭化した木レンガへの注目を促し、原爆後の高熱火災の惨禍を知る。



### 3階：平和は城山から

被爆校舎をかけがえのない教材として次代の子どもたちに継承していく営みを含め、城山小学校の歩みを伝える。

○主な展示コーナーとねらい

#### 生きている平和学習

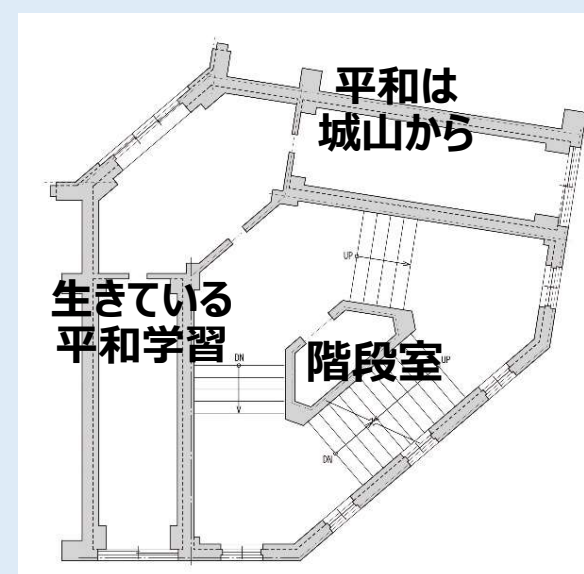
現在も、これからも積み重ねられていく子どもたちの平和学習の成果を更新しながら発信する。

#### 平和は城山から

戦後復興から現在までの城山小学校の平和学習の歩みをたどる。

#### 階段室

被爆の痕跡である木レンガに加え、戦後の復旧跡から、破壊された建物を修理しつつ守り伝えた人々の思いを学ぶ。



## (7) ゾーニング計画(各階)

### 塔屋：城山から世界へ未来へ

原爆投下で奪われた先生・児童の未来を私たちは生きているということを実感し、自分事として考える場とする。

○主な展示コーナーとねらい

#### 平和へのメッセージ

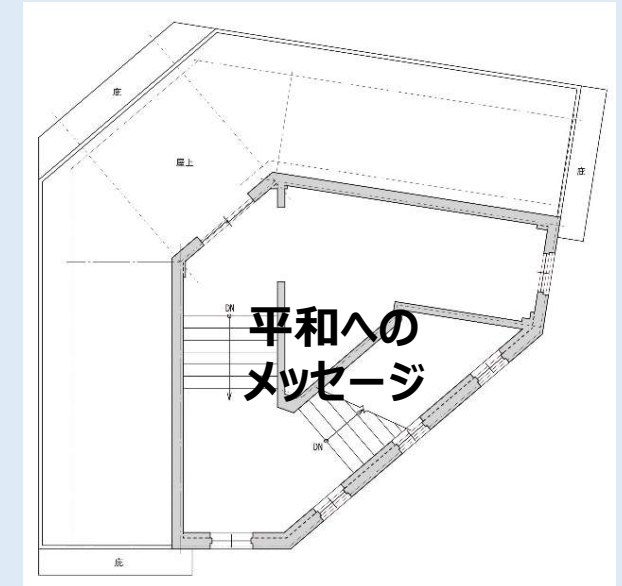
窓からの展望を生かす。

原爆投下で奪われた先生・児童の「未来」

被爆後から先人たちにより作られた今ここにある「未来」

わたしたちがこれから作っていく「未来」

多様な「未来」へ思いをはせ、自分たちが平和な未来を作っていくことを思い、メッセージを残すことができる仕掛けを検討する。



## (8) 展示活用のための運営計画

### ・来館者特性を踏まえた運営

来館者は旧城山国民学校校舎が被爆建物であることを知っているが、具体的な被害は把握していない。より特化した案内ができるよう展示面からサポートできるよう検討する。

### ・指定管理者による解説の重要性

指定管理者（城山小学校被爆校舎平和発信協議会）による解説は、人から人への継承の重要な方法と位置付ける。

### ・ICT技術の活用の検討

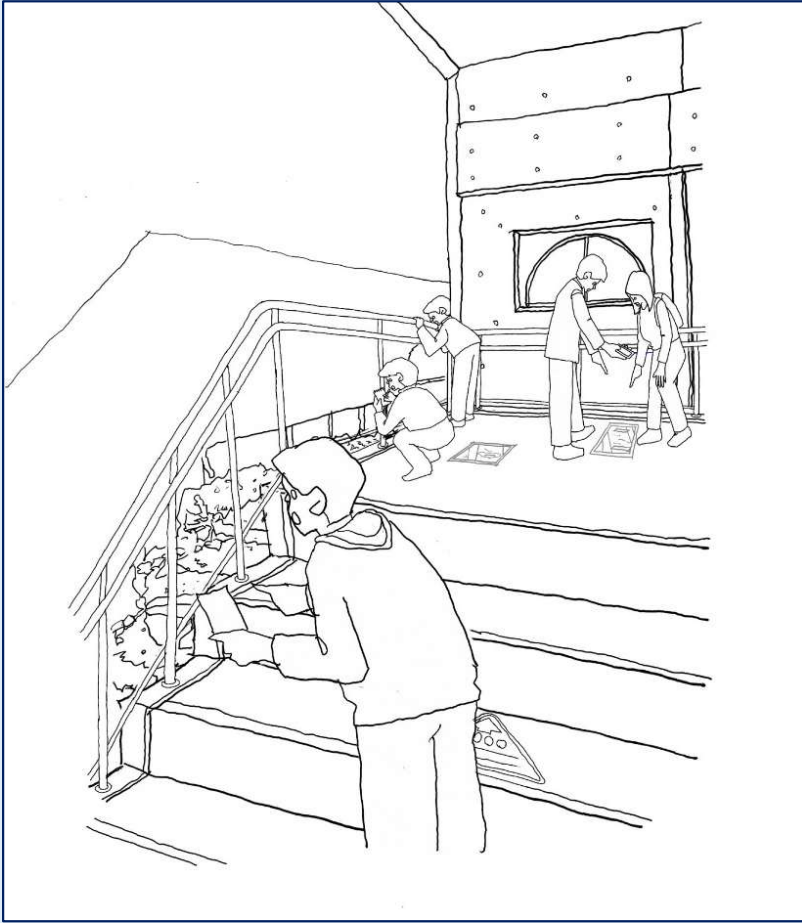
指定管理者の解説を補完するものとして、ICT技術を活用した展示解説ツールの導入を検討する。

### ・城山小学校の平和学習の成果発信の場として活用

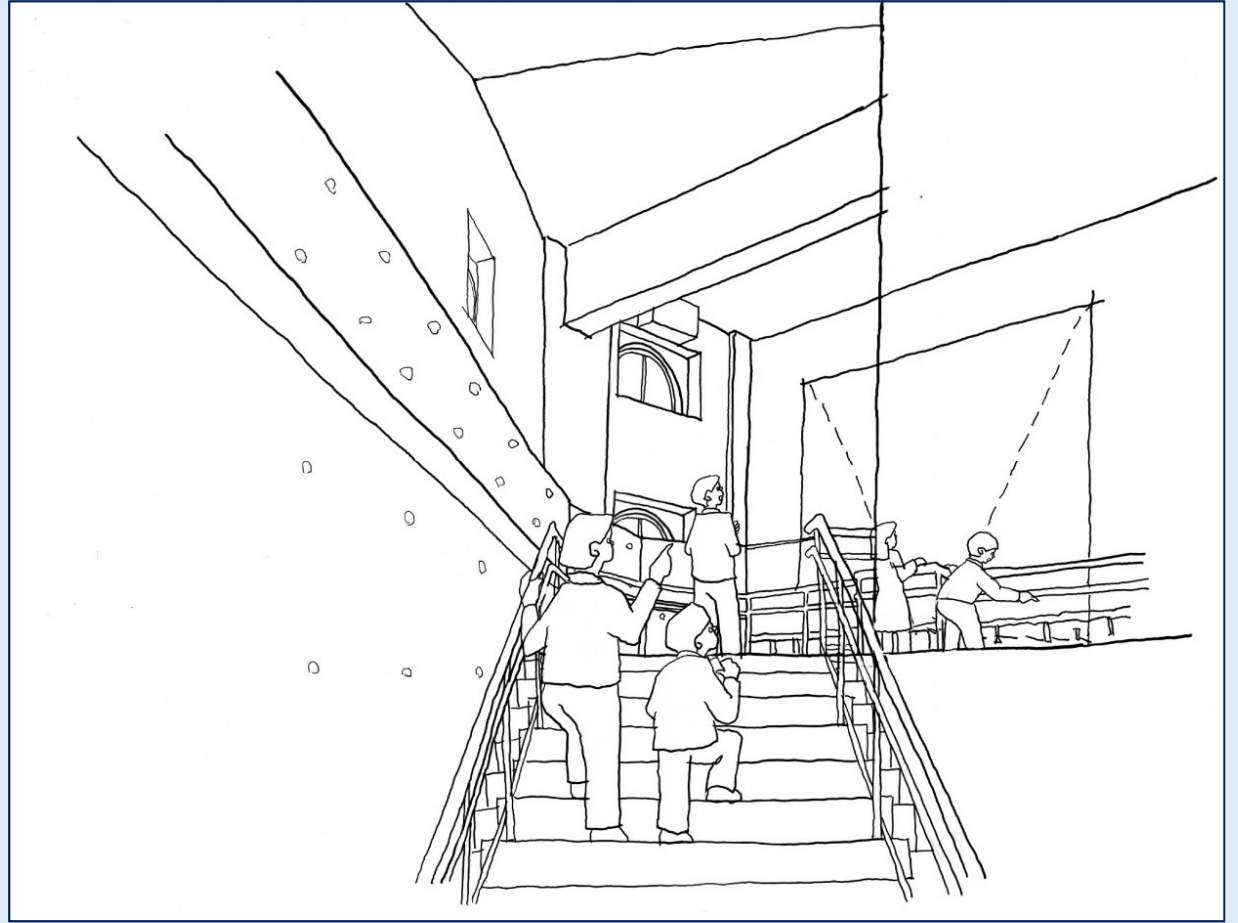
「平和は城山から」を合言葉に、長崎市内屈指の平和学習の質・量を持つ城山小学校だからこそ、その成果を来館者に見ていただける工夫を図る。



## (9) イメージパース



被爆の痕跡である木レンガなどに集中して  
向かい合うことができる展示



映像等を利用し、上の階に存在する遺構や展示を見る動機付けを与える展示

※本イメージは基本計画時点のものであり、基本設計、実施設計を経て変更する可能性があります。